

会 議 録

会議の名称		令和7年度第2回豊里学園コミュニティ・スクール協議会			
開催日時		令和7年9月30日（火）開会 9:30 閉会 11:00			
開催場所		つくば市立沼崎小学校			
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	豊里中学校：古澤 武司、青木 孝二、柳下 浩一朗 皆葉 真治、堀内 正江 校長 岡野 浩則、教頭 永井 明子 今鹿島小学校：稲田 優子、大西 重信、市村 美和 坂本 健太郎、長橋 進也 校長 大竹 伸一、教頭 信田 隆志 沼崎小学校：野堀 憲、正根寺 公平、大塚 久美子 内田 康隆 校長 小林 真理子、教頭 浅尾 信也 上郷小学校：岡田 真樹、岡田 健一、石黒 澄子、池田 克美 校長 松房 道之、教頭 篠崎 篤史			
	その他				
	事務局	教育局生涯学習推進課 係長 飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人	
非公開の場合はその理由					
議題		熟議「豊里学園の子どもたちを育成するために、学校と地域でどのような活動ができるか」			
会議録署名人				確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会				
	2 自己紹介				
	3 協議				
	(1) 前回の協議内容の確認 (2) テーマ「豊里学園の子どもたちを育成するために、学校と地域でどのような活動ができるか」				
	4 その他	・コミュニティ・スクール協議会第3回の予定について			
5 閉会					

<審議内容>

- 1 開会 事務局：浅尾教頭（沼崎小）より
- 2 自己紹介 豊里中→上郷小→今鹿島小→沼崎小
会長・副会長の確認（古澤会長、青木副会長）
- 3 協議 9:45～10:55
【熟議】テーマ「豊里学園の子ども達を育成するために、学校と地域でど

のような活動ができるか」

○各校からの情報共有・発表

①豊里中

- ・過去の活動内容や出来事の再発見（豊里音頭など）、豊里のゲストティーチャー人材を活用する。

→地域も一緒になって、つくばスタイル科などで豊里のよさを再発見する活動が必要である。（小中連携して）

- ・一つ一つの家庭が孤立している状況があるため、保護者同士のつながりが大切である。

→家庭教育学級や学校行事での繋がり場の設定を意識する。

②上郷小

- ・小さなくくりで繋がりを作ることが大切である。上郷小単位で組織を作り、持続可能な行事を計画する。
- ・地域を生かした授業づくり、学校は地域や家庭に協力してほしいことを発信することも大切である。
- ・地域と学校をつなぐコーディネーターの活用も重要ととらえている。
- ・家庭では、地域貢献の必要性を家庭で教える。保護者の学びも必要である。

③今鹿島小

- ・学校の教育活動の中で、体験型の活動を増やしたい。
- ・小規模校ならではの活動も推進する。大人も参加できるものも企画している。（保護者と一緒のサマーキャンプなど）
- ・縦割り班清掃も重要→コミュニケーションづくりのきっかけとなる。
- ・150周年のイベント企画→今後地域の方々との話し合いを進める。
- ・地域体験マップの作り方→地域の方にインタビューをして作っていくのも子供たちの興味関心が高まり、コミュニケーションの向上にもつながるのではないか。

④沼崎小

- ・現在も、地域と連携した活動が活発である。
- ・地域と各家庭との連携が希薄である。→情報の発信が必要
- ・家庭→保護者ボランティアとしてもっと活動したいと思っている保護者もいる。ボランティアの仕組みの再構築が必要と感じる。
- ・地域の人材バンクの登録（教職員は定期異動もあるため、だれもが一目でわかるものが必要）

村上社会教育主事より

- ・ 本日の報酬の手続きについて
- ・ C S の仕組みについて、方向性について（本日の豊里学園のC S の感想も含めて）
- ・ 出前講座の活用について
- ・ 「地域も学校も共に活性化するためにコミュニティ・スクールはどうあるべきか」（答申）についての説明

古澤会長より

- ・ 回覧板で各家庭に様子を伝えたり、市報にC S の内容を入れたりするなどC S について皆に伝え続けることが大切である。

コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

開催予定：3回目令和8年1月27日(火) 会場：豊里中学校

- 5 閉会 事務局：浅尾教頭（沼崎小）より
本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定。

令和7年度 第2回豊里学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和7年9月30日（火）

9：30～11：00

場所：沼崎小学校 会議室（1階）

次 第

1 開 会

2 自 己 紹 介

3 協 議

（1）前回の協議内容の確認

（2）熟議テーマ

「豊里学園の子どもたちを育成するために、

学校と地域でどのような活動ができるか」

4 その他

コミュニティ・スクール協議会第3回の予定について

5 閉 会



令和5～7年度 豊里学園グランドデザイン

豊里学園
教育目標

自己を磨き、夢の実現を目指す児童生徒の育成

学園 Purpose (コミュニティとしての役割)

・ Well-Being (一人ひとりが幸せな) 豊里を目指して

コミュニティ・スクールとの連携

【教えから学びへ】

「受け身の学び」から「自ら学び表現できる」意識の醸成

KPI: 小1～中3年生が、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている児童生徒の割合

R5:54% → R6:59% → (R7:65%)

【管理から自己決定へ】

ルールメイキングで向上を目指す学級づくり

KPI: 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童生徒の割合

R5:55% → R6:61% → (R7:65%)

【非認知能力の再認識へ】

自分の得意や好きなことを見つけられるチャンスづくり

KPI: 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しようとする児童生徒の割合

R5:53% → R6:63% → (R7:70%)

表現する力の強化

- ・リーディングスキルを意識した授業づくり
- ・対話の質を重視した取り組み

KPI(重要業績評価指標):

重点目標を達成するために行う日々の活動の具体的な行動指標のこと

やりがいと働き方のコラボ

沼崎小学校



豊里中学校



今鹿島小学校



上郷小学校



令和7年度 つくば市立豊里中学校 グランドデザイン

校 訓 『自主 勤労 協和』

学校教育目標 自己を磨き、夢の実現を目指す生徒の育成

組織目標 ○「繋がり」を意識した教育活動の推進 ○教育大綱に基づいた授業改善
○ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進

ビジョン2025

表現力 目指す生徒像

考える生徒

考えをもつ 多面的に考える 考えを表現する

認め合う生徒

よさを認め協力し合う 他人の痛みが分かる

挑戦する生徒

目標をもつ 粘り強く取り組む

- 自ら学び、表現できる意識の醸成
- 生徒の視点や発想を生かし向上を目指す学級・学年づくり 自治を重視した生徒会活動
- 「豊里に生きる自分」を見つめるキャリア教育の充実 ～つくばスタイル科を軸として～

ビジョン2025

連携 安全・安心

- 保護者、地域との連携・強化
～コミュニティ・スクールとの連携～
- 豊里学園引渡訓練・交通安全教育の充実

ビジョン2025

教師力 研鑽・信頼

- 授業改善『問いかけ』『コーチング』
- 資質・専門性の向上に向けた研修の充実
- ワークライフバランスを意識した勤務



学校教育目標 夢と志をもち未来を創る児童の育成

～すべての児童にとってWell-Beingな沼崎小～

組織目標

探求心をもち、他者と対話し他者を認め、考えを深めることができる児童の育成

重点1: キャリア教育の視点を取り入れた探究型の学びの充実

目指す児童像

【教えから学びへ】

課題をもち、探究心をもって学ぶ児童

【管理から自己決定へ】

互いの良さを認め合う児童

【非認知能力の再認識へ】

目標に向かって挑戦し続ける児童

- 探究的な学びの単元構成の工夫
- 課題設定と振り返りの工夫
- リーディングスキル等を活用し対話の質的向上を図る手立ての工夫

- 自己選択・自己決定の場の設定（個別最適な学び・ルールメイキング）
- 他者との対話による、考えを深める活動の工夫

- 探究的・協働的な課題設定の工夫
- 自己肯定感・自己有用感の向上
- キャリア教育における実体験の重視による主体性の育成

重点2: 地域・保護者の連携、協働体制づくり

- 積極的な情報発信（学校だより、HP等）
- 地域・外部人材・関係機関等の地域の教育力の活用
- 豊里学園コミュニティ・スクール協議会との連携

重点3: チームで協働する教職員集団づくり

- 教職員の共通理解とチーム対応力の向上
- 研修の充実による教職員の資質向上
- 日課の工夫等での時間確保による働き方改革の推進



令和7年度 つくば市立今鹿島小学校グランドデザイン

【学校教育目標】

互いのよさを認め合い、自らの力で未来を拓く児童の育成

【組織目標】

社会の変化に、しなやかに対応できる力を養う教育活動の推進

目指す児童の姿

『教えから学びへ』

○多面的に考え表現できる

- ・課題解決型学習
- ・体験型、発信型学習

『管理から自己決定へ』

○よさを語り認め合える

- ・ルールメイキング
- ・自治的な集団づくり

『非認知能力の再認識へ』

○経験値をより高めていく

- ・安心、信頼の生活環境
- ・試行錯誤が保証される環境

地域とともに

- コミュニティスクール協議会との連携強化
(学園内連携の充実と活性化)
- 地域人材(ゲストティーチャー)の積極的な活用
- 地域教育力を活用した体験活動の充実

高め合う教職員

- 「働きがい」を充実させる、3つのユニットによる
協働体制の充実とユニット内チーム担任制の導入
- ニーズに合わせた校内研修
- 互いのよさを認め合い、支え合う風土の醸成



令和7年度 つくば市立上郷小学校グランドデザイン

目指す頂: よりよい未来をひらける人・コミュニティを育てる
～ Well-Being (一人ひとりが幸せな) 豊里 ～



【組織目標】

- ◎児童の問いを生かしたプロジェクト学習の展開
- ◎児童に寄り添い育む時間を中心にすえた学校改革の推進



教育大綱に基づいた教育活動

- ◎教えから学びへ
～体験、協働、試行錯誤、アウトプットの重視
～振り返り活動(自己調整力)の強化
- ◎管理から自己決定へ
～対話を通じた学校生活の向上を目指す特別活動の展開
- ◎認知能力偏重から非認知能力の再確認へ
～児童が他者や社会と協働する活動のさらなる実践
- コミュニティースクールの推進
- ◎地域との対話、協働のさらなる推進
- やりがいと働き方のコラボ
- ◎協働により補完し合い、高め合う教職員集団へ

